

2013年

環境活動レポート

取組期間(2012年4月～2013年3月)



作成日 2013年5月7日

■ごあいさつ

ヒロコーヒーは自社工房による製造から販売（一般消費者向・業務用卸）までを行っております。皆様のあたたかいご支援を受け、平成24年で創業35年を迎えることができました。私たちは単に“喫茶店の多店舗経営”というような狭い視野の事業展開は行っていません。真にコーヒーを愛し、コーヒーを媒体にホスピタリティビジネスの新しいスタイルを築いていこうと果敢にチャレンジを続けています。

2001年にコーヒー工房がJAS認定を取得、2003年には本部・直営部・営業部・コーヒー製造部・ワゴンサービス全店において品質マネジメントシステムISO9001を取得、徹底した品質管理のもと、お客様の声をあらゆる方法で集め、商品やサービスに反映させています。

近年はコーヒーの生産者・生産地にも目を向け、サステナブルコーヒーの取り扱いにも力を入れ、コーヒーの生産地の環境問題、また生産者と労働者などの人権に配慮したコーヒーを皆様に提供することで、間接的に生産者を支援し、地球環境の保全に努めています。

株式会社ヒロコーヒー 環境方針

＜環境理念＞

私たちは未来の子供たちへ豊かな地球を残していくために今やるべきことをしっかりと学び行動していくことが大切だと考えます。また、コーヒーを提供する企業として、コーヒー生産にかかわる環境への問題を学び、消費者に伝えていくことで環境への理解を得、改善を求める努力を行い、さらに食の安全と安心を確保、また食のもたらす環境への負荷を考え改善活動を行います。ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組めます。

＜環境保全への行動指針＞

1. コーヒーを取り扱う会社として持続可能なコーヒー生産のためにコーヒー生産者が取り組む環境保全活動を応援します
2. 製造（コーヒー・ケーキ・パン）・小売・サービス業として安心・安全な商品サービスを提供しながら環境負荷の低減を常に考えます。
3. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）
 - ・電力（工場、事務所、各店舗）
 - ・都市ガス（工場、事務所、各店舗）
 - ・自動車燃料（営業車、配送用トラック）
 - ②食品廃棄物・一般廃棄物の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）
 - ③排水量の削減（水資源の保全）
 - ・一般水道水
 - ④社会貢献
 - ・環境負荷の少ない商品の販売促進
 - ・地域での環境活動への積極的な参加
 - ・コーヒーを通して環境との関わりのあるシンポジウムの開催
4. グリーン購入の促進
5. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
6. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2008年11月20日

改定日：2011年11月17日

代表取締役

山本 光弘

■事業所の概要

- (1) 事業所名及び代表者名
株式会社 ヒロコーヒー
代表取締役 山本 光弘
- (2) 所在地
本社:大阪府吹田市江坂町1-7-7ファインクレストビル2階
各工場・各店舗は別紙参照
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者・担当者 直営部 斉藤豊 TEL:072-778-0411
- (4) 事業内容
コーヒー、ケーキ、パンの製造販売、直営店経営
- (5) 事業の規模
製品出荷額 15億6000万円(全部署)
(主要製品(生豆)生産量 162トン)

	営業部	本店	本店ギャラリー	江坂店	五月丘店	伊丹店
従業員(稼働人数)	2	4	2	3	5	4
延べ床面積 (㎡)		132	45.45	76.03	112.2	109.46
	セルシー店	緑ヶ丘店	桜店	あらまき店	いながわ店	つかしん店
従業員(稼働人数)	5	5	5	6	30	5
延べ床面積 (㎡)	75.58	129.8	99	155.11	784.02	115.71
	西宮北口店	箕面小野原店	大丸梅田店	イオンモール昆陽店		合計
従業員(稼働人数)	25	10	6	5		122
延べ床面積 (㎡)	480.16	261.06	134.76	132.23		1408.73

コーヒー工房・ケーキ工房はいながわ店、パン工房は西宮北口店に含む

- (6) 事業年度 4月～3月

■主な環境負荷の実績

項目	単位	2010年 (基準年度)	2011年	2012年
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	853,059	866,528	827,387
廃棄物総排出量	トン/年	56	59	66
食品廃棄物排出量(概)	トン/年	56	38	45
総排水量	m ³ /年	18,496	18,496	20,331

■環境目標及びその実績

項目	年度	2010年		2011年		2012年	
		(基準年度)	(目標) 基準年度比	(実績) 目標比	(目標) 基準年度比	(実績) 目標比	
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	677,252	663,707 98.0%	685,860 103.3%	656,934 97.0%	639,732 97.4%	
ガスの二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	142,059	139,218 98.0%	145,314 104.4%	137,797 97.0%	150,351 109.1%	
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	33,748	33,073 98.0%	35,354 106.9%	32,736 97.0%	37,304 114.0%	
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	853,059	835,998	866,528	827,467	827,387	
廃棄物総量の削減	kg	56,358	55,231 98.0%	59,183 107.2%	54,667 97.0%	66,061 120.8%	
食品廃棄物のリサイクル	%	14.0%	28.0%	23.0%	30.0%	22.0%	
節水	m ³	18,496	18,126 98.0%	18,496 102.0%	17,941 97.0%	20,331 113.3%	
サステイナブルコーヒー取扱量	%	75.0%	100.0%	78.2%	80.0%	81.2%	
地域での環境活動への参加	回/月	1	1	1	1	1	
シンポジウムの開催	回/年	1	2	2	2	1	
グリーン購入	%	-		33.0%	34.0%	35.0%	

(注)二酸化炭素排出係数は0.378kg-CO₂/kWhを使用。

(注)サステイナブルコーヒーとは『安心安全で各プロセスに手抜きがなく環境や人権に配慮したコーヒーの総称』。

(注)コーヒーの価格高騰により生産者のサステイナブル認証への理解が難しくなりつつあるため、

2012年のサステイナブルコーヒー取扱量目標値を80%に変更。

(注)その他社会貢献の取り組みはその他取組の紹介にて詳細を記す。

■環境活動の取り組み計画と評価(本部他)

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況		評価(結果と今後の方向)
電力による二酸化炭素排出量の削減	目標数値 (kg-CO2) 322053	目標達成 目標比95.9%	目標達成。
チャレンジ25への参加(全社員個人目標設定)	実績 (kg-CO2) 308965	○	店舗数増加により製造部門での生産数は増加しているものの、LED照明への着実な移行や節電意識の向上により増加分を補っている。また、生産効率向上により、稼働時間の短縮にも努めている。
節電運動展開		○	
不要照明の消灯		△	
クールビズ・ウォームビズ運動		△	
エアコンを省エネタイプに更新		△	
LEDの導入(順次)		○	
ガスによる二酸化炭素排出量の削減	目標数値 (kg-CO2) 83580	目標未達成 目標比111.9%	目標未達成。
効率のよい生産(コーヒー豆・ケーキ・パン)を行う	実績 (kg-CO2) 93533	○	電気とは異なり、店舗数増加の要因が目標未達に大きな影響を及ぼしている。作業ミス件数は、作業要員の熟練度に左右されるため、増加する時期もあった。
作業ミスを減らす		△	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	目標数値 (kg-CO2) 32735	目標未達成 目標比113.9%	目標未達成。
使用ルートの見直し	実績 (kg-CO2) 37304	○	昨年の秋の阪急百貨店2店舗増加により、多頻度少量配送を余儀なくされたことが最も大きな要因。配送ルートは各部署随時見直しをかけている。
冷暖房の控え目使用		○	
燃費のよい車の購入(更新時)		○	
自動車使用をひかえる		△	
一般廃棄物の削減	目標数値 (kg) 22866	目標達成 目標比92.7%	目標達成。
裏紙使用	実績 (kg) 21208	△	使用済みコピー紙や新聞紙の古紙リサイクルが出来た。来期は、社内資料のペーパーレス化を推進したい。
分別による古紙のリサイクル化		△	
新聞紙の古紙化		△	
段ボール再利用		○	
マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動の推進		×	
食品リサイクル実施率の向上	目標数値 30%	目標達成 目標比125.9%	目標達成。
行程改善によるロスの削減	実績 38%	○	生ゴミ処理機の設置により本部他の商品ゴミについては順調に削減出来ている。コーヒーカスのリサイクルは、2012年7月より中断。新たな施策開始が急務。
リサイクル先の開拓		△	
生ゴミ処理機の設置による生ごみの削減		◎	
節水	目標数値(m ³) 8610	目標未達成 目標比119.8%	目標未達成。
不要時の節水	実績(m ³) 10321	○	新店オープンに伴う製造量の増加が大きな原因と考えられる。
雨水利用の促進		×	
社会貢献	目標 ①サステイナブルコーヒー取扱量80% ②1回/月 ③2回/年 実績は評価参照	目標達成 目標比101.5%	①諸事情により、2012年度よりサステイナブルコーヒー取り扱い率目標を下方修正し、何とか達成出来た。81.2%。昨今のコーヒーの価格高騰により生産者の認証への理解が難しくなりつつある。イエメン・ジャマイカなど難しい地域もあり、なるべく現地へ足を運び、こちらの意向を伝えて、目標達成出来るようにしていく。 ②毎月周辺清掃を実施 ③サステイナブルコーヒーシンポジウムは、10月に1回と、計画より少し遅れて4月23日に開催。
①環境負荷の少ない商品の取り扱い	実績は評価参照	△	
②地域での環境活動への参加		○	
③シンポジウムの開催		△	

■環境活動の取り組み計画と評価(店舗)

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力による二酸化炭素排出量の削減	目標数値 (kg-CO2) 334882	目標達成 目標比98.7%
チャレンジ25への参加(全社員個人目標設定)	実績 (kg-CO2) 330768	○
節電運動展開		△
不要照明の消灯		△
クールビズ・ウォームビズ運動		△
LEDの導入(順次)		○
エアコンを省エネタイプに更新		△
ガスによる二酸化炭素排出量の削減	目標数値 (kg-CO2) 54218	目標未達成 目標比104.7%
作業ミスへの意識を高める	実績 (kg-CO2) 56818	○
従業員への意識を保つ		○
一般廃棄物の削減	目標数値(kg) 31802	目標未達成 目標比141.0%
	実績(kg) 44853	○
分別の徹底		○
作成ミスを減らす		△
販売量に合わせた仕入れを行う		△
食品リサイクル実施率の向上	目標数値 30%	目標未達成 目標比44.0%
在庫管理による材料廃棄ロスの削減	実績 13%	△
リサイクル先の開拓		×
生ごみ処理機の設置による生ごみの削減		△
節水	目標数値(m ³) 9331	目標未達成 目標比107.2%
	実績(m ³) 10010	
節水呼びかけ		△

■環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
消防法	対象建物への防火管理者の設置・消防訓練の実施、消火器の設置
食品リサイクル法	食品廃棄物のリサイクル率向上
容器・包装リサイクル法	容器・包装のリサイクルの推進、リサイクル費用の支払い
廃棄物処理法	委託基準:一廃収集業者の許可の確認 産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証写し保管 保管基準 マニフェスト交付等状況報告
フロン回収・破壊法	・フロン類の適切な処理、回収・破壊の工程の確認
下水道法	・使用許可
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引き取り業者への引渡し新車購入時リサイクル費用を支払う
自動車NOx・PM法	排出基準を満たす適合車または経過処置対象車を使用する

関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間なし。

食品廃棄物の再生利用実施率未達成。2011年12月よりコーヒーかすのリサイクルを進行しており、再生利用実施率は順調に向上していたが、2012年7月、諸事情により中断。

■環境活動の紹介

●店頭でのレジ袋削減活動



レジ袋・豆袋の削減に協力いただくとエコポイントがたまる。カードがいっぱいになると金券もしくは環境に優しいオーガニックコーヒーが飲める



●麻袋・コーヒー豆のリサイクル商品



コーヒーの生豆が運ばれてくる際の麻袋。かわいいトートバックやハンチング帽、マガジンラックなどに加工。袋の柄そのままなのでかわいい柄は早い者勝ち。その他コーヒーかすを混ぜた手漉きの紙を使用したポストカードなど『ヒロリサイクル商品』としてコーナーを設け販売。

●キャンドルナイト実施



●周辺清掃の実施

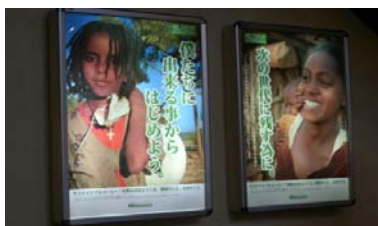


毎月第3火曜日に店舗周辺を清掃しています。

●サステイナブルコーヒーに関する取り組み

Think our earth

サステイナブルコーヒー、オーガニック食品の特集



シンポジウムの開催

コーヒー教室などを回り代表者自ら熱い思いを語ります。



サステイナブルコーヒーとは・・・
安心・安全で各プロセスに手抜きがなく環境や人権に配慮したコーヒーの総称

なぜコーヒー栽培が環境保全と関係するのか？



シェイドツリーの仕組み



こちらは、レインフォレストアライアンス認証を取得しているアキアレス農園の風景。
 上層部はシェイドツリーと呼ばれるバナナなどの樹木、その下にコーヒーの木が栽培されている
つまり、コーヒーは日陰で育つ植物なので、森林を守りながら生産できる農作物なのです。
 森を守ることがそこに生息する野鳥などを保護することにつながり、生態系の保全につながります。

コーヒーは世界第2位の貿易品であり、まだまだ、プランテーション化され大量生産を行う農家も多いですが、現在は、認証団体によりそれぞれの厳しいガイドラインにそった取組を行う農家も増えてきています。



こちらは農園内の学校の様子。
 環境保全だけでなく、生産者への人権配慮にも取り組まれています。
 医療施設や学校、教会、スーパーなど、コーヒー生産を後世にも引き継げる環境作りもされています。

ヒロコーヒーでは数あるコーヒーの中でもサステイナブルコーヒーを販売することで、生産者とともに環境保全に対する取組を行っていきます。

■ 認証コーヒーの紹介



熱帯雨林の保護を目的に設立された国際的非営利環境保護団体です。この団体の基準を満たしたコーヒーには認証が与えられ、消費側は認証コーヒーの購入を通じて、熱帯雨林同盟活動に参画することができます。さらに、認証コーヒーは栽培農園が特定されているため、生産履歴が明確な安全・安心を追求したコーヒーでもあります。



木々の日陰は土の乾きを防ぎ、落ち葉は有機物を含む豊かな土地を作り、森林は激しい雨による土壌流出を防ぎ、野鳥や渡り鳥の生息地の環境を保護します。この熱帯の森林を守りながら行われる伝統的な栽培、すなわち原生の樹木が作る多葉樹冠の下での栽培を、シェードグロウンと呼び、スミソニアン渡り鳥センターはこの伝統的なシェードグロウンで生産されたコーヒーを、バードフレンドリーとして認証しています。



この協会が認証するのは国際基準による堆肥などの有機物を主な肥料として用いて回りの自然環境を保全しながら本来のその土地が持つ地力を高めて作物の健康を図り、安全で味のよい農産物を目指す有機農法で、栽培・収穫・輸送・加工製造・流通まで基準を満たしたものが認定されます。



Good Insideとは、コーヒー生産者とその環境を配慮した信頼のできる方法で生産・加工がおこなわれているかを確保する世界標準の認定プログラムです。ヒロコーヒーはGood Inside推進委員会に所属しています

■各部署所在地

直営部

本店	〒564-0052 吹田市広芝町9-19 山本マンション103
コーヒーギャラリー本店	〒564-0052 吹田市広芝町9-19 山本マンション101
江坂店	〒564-0063 吹田市江坂町1-23-19 米沢第5江坂B1
五月丘店	〒565-0834 吹田市五月丘北1-10 メロディーハイツ1F
伊丹中央店	〒664-0851 伊丹市中央1-2-23 ファミールデュオ1F
千里セルシー店	〒560-0082 豊中市新千里東町1-5-2 セルシー2階
豊中緑ヶ丘店	〒560-0053 豊中市向丘1-7-1 フジタピア1F
箕面桜店	〒562-0041 箕面市桜4-18-3 メゾンアーデンⅡ 1F
伊丹あらまき店	〒664-0001 伊丹市荒牧7-10-5
コーヒーギャラリー箕面ヴィソラ店	〒562-0034 箕面市西宿1-13-10 EAST2-105
伊丹いながわ店	〒664-0831 伊丹市北伊丹5-15-1
尼崎つかしん店	〒661-0001 尼崎市塚口本町4-8-1 北館1F
西宮北口店	〒663-8033 西宮市高木東町37-11
箕面小野原店	〒562-0032 箕面市小野原西4-8-14
大丸梅田店	〒530-8202 大阪市北区梅田3-1-1 大丸梅田9階
イオンモール伊丹昆陽店	〒664-0027 伊丹市池尻4丁目1番地1

製造部

いながわコーヒー工房	〒664-0831 伊丹市北伊丹5-15-1
製菓部	
いながわケーキ工房	〒664-0831 伊丹市北伊丹5-15-1
製パン部	
パン工房麦蔵	〒663-8033 西宮市高木東町37-11
総務部	
本社	〒564-0063 吹田市江坂町1-7-7 2階